

山陰教区 門徒総代会だより

第4連区門徒総代会研修会特集号

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 鎌原茂幸
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



「第四連区門徒総代会研修会」を終えて お寺は変わらない私たちの居場所

山陰教区門徒総代会 会長 鎌原茂幸

浅学非才の小生がこともあろうに、山陰教区門徒総代会の会長という大役を分を弁えずお請けしました。

私が仏さまのご縁をいただいたのは、小学低学年の頃です。朝一番に祖母と一緒に仏壇にお参りし、一番短い「領解文」を称えお仏飯を頬ばり登校することでした。

それまでほとんどお寺にお参りすることもなく、父がお浄土に旅しご縁をいただくことになりましたが、門徒としての知識も、総代としての心得もありません。今日に至ります。

コロナ禍で世界中、そして個々の家庭の日常生活まで様変わりをする中で、十月二十七日、「第四連区門徒総代会研修会」が、連区の教務所長さま、役員の方々と、職員の方々と、各組の総代の皆さまのご支援・ご協力をいただきながら、初の「オンライン研修」でしたが無事開催できましたこと、心から感謝申し上げます。

会長就任時に山陰教区役員の方々と「楽しむお寺」「情報発信のあり方」などに取り組むことを申し合わせました。今回のご講師 邑智東組 高善寺 武田正文師は、その最先端を率先垂範しマスメディアなどで活躍されています。心理学から見たこれからの時代の仏教について事例などを交えたお話は、喫緊の課題である少子高齢化・ウィズコロナの中でお寺を護持していく総代に対する指針であると感じ、大変参考になりました。

人生一〇〇年時代のお寺のあり方を、いかに次世代に繋ぐか、その方法をともに考えながら、『南無阿彌陀仏』を、皆さまと一緒に称えながら、日々を過ごしたいと念じています。

第4連区門徒総代会研修会



二〇二一（令和三）年十二月二十七日（水）、本願寺山陰教堂教化センターにおいて、「第四連区門徒総代会研修会」を開催しました。

「第四連区」は、中国・四国地方の五教区が該当します（四州教区・備後教区・安芸教区・山口教区・山陰教区）。

第四連区の門徒総代会研修会は、五年ごとに各教区持ち回りで開催しています。

二〇二一年度、当会の常任理事会・各組代表理事会において、研修会開催について協議を行いました。「中止にすると、組織の士気低下につながる」「宗派・本山で多くの行事が中止されている中、地方では何らかの形でつながりを作る必要がある」などの意見があり、規模を縮小して開催する方向で検討を続けました。感染予防のため、開催時間を当初予定より短縮し、山陰



開会式挨拶（鎌原会長）



開会式挨拶（佐々木教務所長）



ご講師の武田正文 師



司会進行 (澤田副会長)

教区の参加者は各組二名の定員を設けることにしました。また、第四連区連絡協議会(各教区の正副会長・事務担当者がリモートで出席)では、山陰教区以外の参加者は、オンライン会議システムを使って参加することが承認されました。

研修会当日は、受付に消毒液を設置し、入場時に非接触体温計で検温を行い、演台に透明のアクリル板を設置するなど、感染対策を行いました。

研修会のご講師は、武田正文 師(邑智東組高善寺・臨床心理士・スクールカウンセラー)。武田先生は、ユーザー(動画配信サイト「YouTube」の配信者)としても活動され、YouTubeの番組「武田正文の仏心チャンネル」の登録者数は一万人を超えています。

「これからの時代の仏教」心理学とYouTubeから見えてきたもの」と題し、お話しいただきました。スケジュールを大幅に短縮し、講義時間は四十五分。短い時間ながら、スライドショーを使いながらわかりやすく凝縮した講義でした。

コロナ禍での連区研修会。参加人数を制限し、時間を短縮したこともあり、ご参加いただいた方からは、「もっとゆつくり参加したかった」「武田先生の講義をもっと多くの人に聞いてもらいたかった」と、感想をいただきました。

皆さまのご協力により、無事連区研修会を開催することができました。企画段階からご尽力いただいた山陰教区門徒総代会役員の皆さま、第四連区の各教区門徒総代会役員・事務担当の皆さまに、感謝の意を表します。



配信ブース (各教務所とオンライン接続し映像と音声配信)



閉会式挨拶 (瀬頭副会長)

「神門組総代会結成五十周年記念大会」

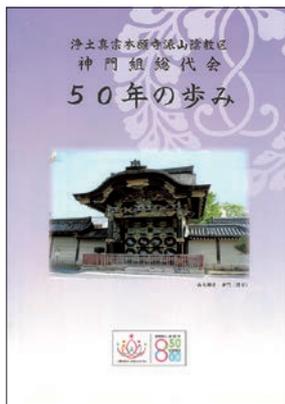
神門組 樋野 宏文

本年六月十日(木)、ビッグハート出雲・白のホールにおきまして、「神門組総代会結成五十周年記念大会」を開催いたしました。

第一部「記念式典」は、佐々木了慎山陰教区教務所長、歴代組長、実践運動委員長、組内各教化団体代表を来賓に迎え、曾田量一副会長の「開式宣言」で始まりました。先ず、「コール・蓮」による厳かで心静まる仏教賛歌の音楽法要がお勤めされました。

主催者として樋野会長挨拶、続いて鈴木二郎神門組組長から祝意が述べられました。

この度の記念大会に対して、本山から結成五十周年表彰が贈られ、佐々木教務所長からご伝達いただきました。会員一同、慶びとともに半世紀にわたる歴史の重みを感じたことです。



神門組記念大会冊子

また、第八代田中幹規元会長、第九代和田昭男前会長へのご苦労に對しまして、本山から表彰状・褒賞品が授与され、併せて神門組総代会からも記念品を贈呈しました。

来賓を代表して佐々木教務所長と鈴木恭之元組長からご祝辞を賜りました。

続いて、この度の受賞に對して第八代田中元会長から謝辞が述べられ、神田進副会長の「閉式宣言」で式典は終了しました。

第二部「記念講演会」は、ご講師に荒本由未師(大田西組副組長・西臨寺住職・本願寺派布教使)をお迎えし、「コロナ禍を生き延びて」と題して約四十分にとり尊いご法話を賜り、本大会の幕が閉じました。

思えば二年前から本山記念参拝等の企画を練り、諸準備を進めて参りましたが、コロナ禍で中止を余儀なくされました。

そんな中、何とか記念大会が挙行でき安堵いたしました。

なお、この度の記念事業として「神門組総代会五十周年のあゆみ」を發刊し、組内各寺院及び総代会会員に配布いたしました。

合掌

組報紹介「神門組」

神門組では、組報「広報かんど」を年二回発行されています。二〇二一年(令和三年)三月に第八〇号を発行。紙面で組内の情報を共有されています。



編集後記

「会として、連区研修会を中止にしたい。規模を縮小してでも開催するべき。」

五月に開催した常任理事会で、理事の一人からこんなお言葉をいただきました。コロナ禍でさまざまな教区行事が中止を余儀なくされる中、大変心強く、ありがたいお言葉でした。

本紙でも紹介した通り、十月二十七日(水)、「第四連区門徒総代会研修会」を開催しました。時間短縮・一部オンライン参加という、当初の予定を大幅に変更したものでしたが、理事の皆さまのお力添えをいただきながら、無事開催することができました。

もちろん、開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染予防に細心の注意を払いました。今回、オンライン会議システムを併用して連区研修会を開催できたことは教区総代会にとつては、意義深いことであつたと思えます。

さて、本紙「総代会だより」は門徒総代会会員の皆さま相互の情報共有の場でもあります。今号から各組のご活動を紹介するコーナーを開始しました。各組でのご活動についての情報をお待ちしております。

(事務局)